

事業計画書

事業名	語りのおもてなし
実施箇所	佐久地域及び大町市
実施期間	事業開始予定年月日 平成26年 6月 1日
	事業終了予定年月日 平成27年 3月31日
事業概要	<p><事業の目的></p> <p>昔話は、口伝えの文学である。子どもたちはお話を耳で聴いて場面を思いうかべ、ファンタジーの世界に入りこみ、様々な体験をする。映像が伴わないので、主人公や物語を頭の中に自由につくりあげていく楽しさがある。また、自分で活字を読む楽しさとは別の、直接身近な大人から語りかけてもらう楽しさがある。近年、メディアやインターネットの普及で、耳から聴く文芸が失われつつある。佐久にも語り継がれてきた昔話がたくさんあるので、それらを再話し、伝承の昔話を学校、保育園、幼稚園、各家庭でもできるように、昔話の再話集を寄贈する。そして、多くの子どもたちに身近にいる大人が声に出して読み聞かせを行うことを目的とする。</p>
	<p><事業の内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「子どもと楽しむ佐久の昔話」（仮題）を出版し、保育園、幼稚園、学校、図書館、児童館に配布する。10月予定 2 小澤俊夫氏講演会『我々は昔話の伝承の途中にいる』6月予定。一般の方や教育関係者の参加を呼びかけ、伝承文学の必要性を伝える。 3 藤井いづみ氏による語りの会『語りのおもてなし』10月予定。一般の方や子どもたちに専門の語り手のお話を耳から楽しむ機会を企画する。 4 地域の保育園、幼稚園、学校、子ども祭りでの語りの会を継続するとともに毎月1回、岩村田のおいでなんしょをお借りして、語りの会を行う。
	<p><事業の効果・アピールポイント></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 出版した「子どもと楽しむ佐久の昔話」（仮題）は、地域の保育園（61園）幼稚園（18園）小中学校（65校）公共図書館（15館）児童館（35館）を配布し、保育や教育現場、地域や家庭で良質な昔話を楽しんでもらう。 2 小澤俊夫氏の講演会は150名規模で行い伝承文学の意味や役割を伝える。 3 藤井いづみ氏の「語りのおもてなし」は200名を予定。幼児から大人まで語りを楽しめる。 4 地域での語りの会では、毎月平均700名の子どもたちが直接語りにふれることができる。（別紙 資料 活動のあゆみ）
	<p><事業における市の役割分担></p> <p>出版した本を保育園、幼稚園、学校、図書館に配布するときに、市からも推薦をしていただけるとありがたい。また、家庭教育の一環として、伝承のお話を身近な大人が直接子どもたちにする大切さを呼びかけていただけたらと思います。</p>